

京都大学人文科学研究所共同研究実績・活動報告書

(1 年計画の 1 年目)

1. 研究課題

「長い 19 世紀」におけるインド・中国の社会経済史の比較

Comparative Study of the Socio-Economic History of India and China in the Long Nineteenth Century

2. 研究代表者氏名

小川道大

3. 研究期間

2019 年 04 月 - 2020 年 03 月 (1 年度目)

4. 研究目的

本研究の目的は「長い 19 世紀」におけるインドと中国の社会経済史を比較する注目点を見出すことである。近年のアジア経済の興隆の中で、アジアからの世界史再考が近年の歴史学の重要な課題となっている。特に欧米による植民地支配が展開された 18 世紀後半から 20 世紀前半にかけての「長い 19 世紀」に関して、アジア間貿易研究の進展などによりアジア史の見直しが進められている。アジアの大国であるインドと中国の「長い 19 世紀」における社会経済史研究も個別にこの文脈で進展してきたが、日本における両国の歴史研究は交流が極めて少なく、アジアという枠組みで歴史を論じる研究視座も整っていないのが現状である。本研究が目指す「長い 19 世紀」における中印史の比較は、欧米列強の進出に焦点が当たったために注目されてこなかったアジア内の同異を示し、アジア史が内包する多様性やアジアという枠組み自体を再考するものであり、アジアからの世界史再考の一助となる。

This project aims to compare the key points of Chinese and Indian socio-economic history. Due to the recent growth of Asian economies, it has now become important to review global history from Asian perspectives – especially how intra-Asian trade and other characteristics developed throughout the long period of colonial rule by Europe during the nineteenth century. Although much research has been carried out on the socio-economic history of China and India, which are both great Asian powers, the study of Asian history as a whole during the nineteenth century has yet to be established in Japan because of the limited amount of academic communication between scholars who historically study each of these

countries. By comparing Chinese and Indian history during the nineteenth century, this project aims to identify similarities and differences within Asia and reconsider the diversity of Asian history in terms of a socio-economic framework – all of which has often been ignored in the past because of the focus on the colonization of Asia by Western countries. This study, therefore, seeks to review global history from Asian perspectives.

5. 本年度の研究実施状況

本年度は4月14日に人文研において第1回研究会を開催し、小川道大『帝国後のインド——近世的発展のなかの植民地化』(名古屋大学出版会、2019年)の書評会を、神田さやこ氏を評者として実施した。次いで7月7日に金沢大学において第2回研究会を実施し、16～20世紀の中国・インドの経済史を中心にあつかう、神田さやこ・城山智子編『アジア経済史——1500～2010』の構想に関して討論会を行った。同時に、今後の中印比較史の共同研究についての目的・意義を確認し、課題と中核となる部分についての議論を行った。12月7日には人文研において第3回研究会を実施し、「長い19世紀」における資源配分をテーマとして土地制度・労働力・航運についての中印比較を行うとともに、今後の研究計画を検討した。

6. 研究成果の概要

最終報告書に記載

7. 本年度の研究実施内容

2019-04-14 小川道大『帝国後のインド——近世的発展のなかの植民地化』(名古屋大学出版会、2019年)書評会 発表者 神田さやこ 慶應義塾大学

2019-07-07 神田さやこ・城山智子編『アジア経済史——1500～2010』討論会 発表者 神田さやこ 慶應義塾大学 発表者 城山智子 東京大学

2019-12-07 「転換期中国・インドにおける資源配分——土地・労働力・航運」 発表者 村上衛 人文研、田口宏二郎 大阪大学、富澤芳亜 島根大学、神田さやこ 慶應義塾大学、木越義則 名古屋大学

8. 共同研究会に関連した公表実績

なし

9. 研究班員

所内

村上衛

学外

小川道大(金沢大学)、岡本隆司(京都府立大学)、神田さやこ(慶應義塾大学)、木越義則(名古屋大学)、城山智子(東京大学)、田口宏二郎(大阪大学)、富澤芳亜(島根大学)

10. 共同利用・共同研究の参加状況

区分	機関数	参加人数				延べ人数			
		総計	外国人	大学院生	若手研究者	総計	外国人	大学院生	若手研究者
所内	0	1 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	3 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
学内	0	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
国立大学	5	5 (1)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	14 (3)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
公立大学	1	1 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
私立大学	2	2 (1)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	6 (3)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
大学共同利用機関法人	0	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
独立行政法人等公的研究機関	0	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
民間機関	0	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
外国機関	0	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
その他	0	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
計	8	9 (2)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	24 (6)	0 (0)	0 (0)	0 (0)

※()内には、女性数を記載

11. 本年度 共同利用・共同研究を活用して発表された論文数

参加研究者がファーストオーサーであるものを対象

総論文数	10(8)
------	-------

国際学術誌に掲載された論文数	0(0)
----------------	------

※()内には、拠点外の研究者による成果(内数)を記載

12. 費目の 30%を超える大幅な変更があった場合の変更理由

なし

13. 次年度の研究実施計画

なし

14. 次年度の経費

なし

15. 研究成果公表計画および今後の展開等

なし